

観光社会資本の事例

テーマ	「生命の水」を渡しつつける通潤橋
【施設の状況写真】	
	
通潤橋を臨む道の駅「通潤橋」	道の駅「通潤橋」の駐車場から見える通潤橋
【施設の利用写真】	
	
通潤橋を渡って、放水を観る人々	豪快な放水をしている通潤橋
【観光資源としての利用状況】	
<p>道の駅「通潤橋」は、平成12年8月に指定を受け、熊本県のほぼ中央に位置し、熊本市と宮崎県を結ぶ国道218号の中間地点として、道路利用者の利便性の向上及び休憩施設(物産館、トイレ等)の利用促進等々を図り、安全で快適な道路交通環境の形成に寄与しています。</p>	
<p>観光面では、道の駅通潤橋の名称の由来となった、国指定重要文化財の「通潤橋」が隣接しており、架橋150年を迎えた歴史遺産としてPRを行うほか、水路橋として石管(送水管)内の砂礫を取り除くために始められた放水を定期的実施するなどして誘客効果を図っています。</p>	
<p>また、近隣地には平成14年度に温泉宿泊施設である国民宿舎をリニューアルオープン、平成15年度には通潤橋史料館をオープンするなど、道の駅とその周辺の文化財と観光施設等々を併せた一体的な観光資源集積地として活用しているところです。</p>	

テーマ	「生命の水」を渡しつつける通潤橋
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>○名称 通潤橋</p> <p>○所在地 熊本県山都町下市地内</p> <p>○内容 水路橋</p> <p>○構造 石橋(長さ75.6m : 幅6.3m : 高さ20m)</p> <p>○事業期間 嘉永5年(1,852年)～嘉永7年(1,854年)</p> <p>○その他 国指定重要文化財(昭和35年2月9日)</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】:道の駅設置効果</p> <p>本町は、熊本県のほぼ中央に位置し、延々と縦横に連なる丘陵と渓谷の中山間地特有の地形条件から、農林業を基幹産業としながらも過疎化が進む状況であり、生活環境及び経済活動等々のすべてにおいて道路網のみの交通体系が活動の基盤となっています。</p> <p>そこで、「休憩機能」、「情報交流機能」、「地域との連携機能」を併せ持った複合施設として、道の駅「通潤橋」の指定を受けたことにより、道路利用者の利便性の向上を始めとした、休憩施設(物産館、トイレ等)の利用促進等々を更に図ることができ、安全で快適な道路交通環境の形成に寄与しています。</p> <p>また、道路交通環境の整備により、周辺自治体を含めた町内外の地域と地域が道路を軸として協力するなど、それぞれの地域内及び地域間の連携の場所とした、広域的な交流により、個性と活力ある「まちづくり」や「地域づくり」が促進されているところです。</p> <p>なお、地域の生活を支える道路と架橋150周年を迎えた現在も現役の水路橋として水を送り続ける通潤橋は、共に人々の生活を支え続けています。</p>	
<p>【位置図】</p>	
<p>【関連ホームページ】 山都町役場ホームページ</p> <p>http://www.town.yamato.kumamoto.jp/</p>	

